

ヤワタソウ		<i>Peltoboykinia tellimoides</i> (Maxim.) H.Hara	準絶滅危惧
		ユキノシタ科	
選定理由	分布域の一部において生育条件が悪化しており、種の存続への圧迫が強まっていると判断される。		写真(岐阜県博物館) 標本 
形態の特徴	高さ30-60cmの多年草。根出葉は1-2個、茎葉が2-3個ある。7-13程度に浅裂する葉身は径30cmになり、類円形で15-30cmの葉柄に盾状につく。集散花序は頂生し、花は淡黄色5弁で上部に少数の鋸歯がある。		
生態的特徴	山地の谷間の陰湿地に自生し、5月から7月に開花する。		
分布状況	日本固有種。本州(中部~東北地方)に分布する。岐阜県においては飛騨地方の南部と美濃地方の東部に見られる。		
減少要因	生育地が分断され、生育面積が狭く個体群も極めて小さいため、環境の変化に影響を受けやすい。森林の伐採や林道工事などによる生育環境の変化が主な要因。		
保全対策	直射日光や土壌の乾燥を避け、樹林を含めた生育地の保全をする。		
特記事項			
参考文献	原 寛(1939)大日本植物誌 ユキノシタ科: p.75-78. 三省堂 佐竹義輔他編集(1982)日本の野生植物 草本 II 離弁花類:p.167-168. 平凡社 大井次三郎(1983)新日本植物誌顕花編: p.799. 至文堂		

文責:後藤常明